

1. 評価結果概要表

評価確定日 平成 19年 6月 11日

【評価実施概要】

事業所番号	4071200770
法人名	医療法人社団 飯盛会
事業所名	グループホーム いいもり
所在地 (電話番号)	福岡市西区飯盛664-1 (電 話) 092-811-9080
評価機関名	社団法人 福岡県介護福祉士会
所在地	福岡市博多区博多駅中央街7-1シック博多駅前ビル5F
訪問調査日	平成19年4月10日

【情報提供票より】(平成 19年 3月 20日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成 14年 12月 1日				
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18	人	
職員数	16 人	常勤	16人, 非常勤	人,	常勤換算 人

(2) 建物概要

建物形態	(併設) 単独	新築/改築
建物構造	準耐火造り	
	2 階建て	1 階 ~ 2 階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	33,000 円		その他の経費(月額)	45,000 円	
敷 金	有(100,000円)			無	
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(100,000円) 無		有りの場合 償却の有無	有(無)	
食材料費	朝食	200 円	昼食	350 円	
	夕食	300 円	おやつ	円	
	または1日当たり		850 円		

(4) 利用者の概要(3月 20日現在)

利用者人数	18 名	男性	4 名	女性	14 名
要介護1	3 名	要介護2	6 名		
要介護3	6 名	要介護4	2 名		
要介護5	1 名	要支援2	0 名		
年齢	平均 80 歳	最低 63 歳	最高 93 歳		

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	倉光病院
---------	------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

自然に囲まれた広い敷地の中にある近代的な建物のホームである。施設長は経験豊かで、認知症介護を熟知している。職員は「入居者一人ひとりの安定した日々の生活を共に」の理念のもと、認知症高齢者の尊厳を守りながら自立支援を理解して対応している。施設の中に入ると暖かい雰囲気があり、利用者の笑顔が明るいグループホームである。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	前回の評価時において改善課題となっていた玄関の施錠については現在も出入りのたびごとに鍵の開閉をしている。
重点項目②	無断外出をされる利用者以外の方々に対する配慮を十分にして、玄関の施錠をしない方向での検討が望まれる。
	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
重点項目③	運営推薦会議において介護の状態・施設の状況を報告して意見を聞いて、サービスの向上に活かしている。施設長、職員共勉強不足を自覚しているが、実務者研修や実習生を受け入れているので、より良い支援の為の取り組みが期待される。
	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部8, 9)
重点項目④	苦情相談については、公的窓口、ホーム内窓口で明示している。ホーム便りを発行したり、利用者の状態については担当職員が個別に報告をして、家族に不安を生じさせないように対応している。
	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
重点項目④	地域の清掃活動に参加したり、季節の行事では神社などに出向いている。正月には、地域の青年団より獅子舞の祝いを受けるなど交流し、地域との連帯に努めている。

2. 調査結果(詳細)

(☐ 部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	「入居者一人ひとりの安定した日々の生活を共に」の理念を持っている。地域とのつながりに努めているが、地域密着型サービスとしての理念が見えない。	○	地域密着型サービスの意義について職員全体で再認識し、地域と密着した生活の継続支援の理念の検討が望まれる。
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	毎朝の朝礼時の唱和「利用者の生き活きた生活の支援を」の理念に基づいたケアが行われている。又、毎日午後にはカンファレンスを行い確認している。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	地域行事や清掃活動に参加したり、正月の獅子舞の祝いを受けるなど地域との交流に努めている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	評価の意義を理解し、勉強会などで改善すべき点に気づき、検討して具体的な改善に取り組んでいる。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	利用者、家族、町内会、民生委員、支援センターの参加を得て、ケアの状況などを報告して意見や要望を聞き、サービスの向上に活かしている。		
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市町村から実務者研修や実習生を受け入れて、市町村と共にサービスの質の向上に取り組んでいる。		

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
7	10	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	権利擁護に関する外部研修に参加し、内部研修時に職員への伝達研修によって周知をはかっている。詳細な記録もされている。又、家族への説明もなされている。		
4. 理念を実践するための体制					
8	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	ホーム便りを家族に送り、ホームの行事や生活ぶりを知らせている。利用者の担当職員は、ホーム便りに自筆で入居者の状態を書き添えたり、電話での報告もしている。金銭については、詳細に記録し家族の確認も得ている。		
9	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族との意見の交換もしており、運営に反映させている。苦情相談については、公的窓口及びホームの窓口の存在を明記し、家族会にても説明している。		
10	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	職員の異動の際には、利用者への不安を第一に考慮し、新しい職員は馴染みの職員と共に対応している。		
5. 人材の育成と支援					
11	19	○人権の尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。また、事業所で働く職員についても、その能力を発揮して生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されるよう配慮している	職員採用については年齢性別にこだわらず、グループホームに適した人材、能力であれば採用している。意見や要望については、出し易い雰囲気であり、職員は落ち着いて勤務している。		
12	20	○人権教育・啓発活動 法人代表者及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる	毎月、人権擁護委員会を開き、職員教育に取り組んでいる。		
13	21	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部研修へ職員は順次参加しており、内部研修において報告している。研修内容は詳細に記録され、随時閲覧できるようにしている。	○	記録に日時が記入されていないものがあるので、明記する事が望まれる。

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
14	22	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム協会に加盟している。市や協会が主催する研修に参加し、他施設の職員との交流をしている。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
15	28	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入居希望者や家族にホームについて十分に内容を説明し、理解していただくとともに、ホームに馴染んでもらえるように見学していただいている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
16	29	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	利用者は職員と共に食事作りをしながら旬の食材の事や調理の方法などを聞いたり、掃除、洗濯物干しなど、日常生活を共有し支えあう関係を築いている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
17	35	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	過去の生活歴や家族からの情報を基に一人ひとりのできること、出来そうなことを自由に発揮できるように支援し、本人の思いや希望をでき得る限り優先して支援するように努めている。		
18	38	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	日々のカンファレンス、家族と面会での話し合いを基に、毎月、計画作成担当者とスタッフで十分に検討しながら一人ひとりに合った介護計画を作成している。		
19	39	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	毎月末のカンファレンス時に評価を行い、必要に応じて計画の見直しをしている。計画の変更時には本人、家族の意見や希望を聞きながら行っている。		

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
20	41	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	本人や家族の要望を聴き、外出や個々の趣味などについて自分らしい時間を過ごしてもらえるように支援している。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
21	45	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	希望する医療機関について本人や家族と話し合い、希望を大切にしている。併設病院から週1回の定期往診があり、また何時でも診療を受けられる支援が行われている。		
22	49	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	「看取り」のマニュアルを作成している。終末ケアを希望する家族には十分な説明を行ったうえで家族等や医師、関係者等で方針を話し合っており、同意書も作成している。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
23	52	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	入居者は、職員にとって人生の先輩であるという認識をもち、常に言葉づかいに気をつけたり、個人情報の取り扱いにも十分に配慮している。		
24	54	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	概ね1日の流れはあるが、一人ひとりのペースを大切にしている。例えば、朝の起床が遅い利用者はその方の起床に合わせた朝食であったり、入浴についてもできる限り利用者の希望を取り入れて支援している。		
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
25	56	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者の咀嚼や嚥下能力に応じて調理を行い、盛り付け、味付け、また、食後の片付け等も職員と一緒に楽しく行っている。その日の献立が嫌いな利用者には別メニューを提供している。検査者のみが同じ食事を一緒に摂食していた。	○	一緒に摂食している職員はインスタント食品や弁当であるが、出来れば同じ物を食べることで共通の話題があり、会話も豊かになったりするので、食事をより楽しむ環境づくりを前向きに検討されてはいいかがでしょうか。

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
26	59	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴の時間は出来るだけ本人の希望を取り入れている。入浴を拒否される方には、声の掛け方やタイミングを考えながら入浴の支援をしている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
27	61	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	一人ひとりの生活歴を把握して、能力を生かせる場面づくりをしたり、トランプ、手芸、歌などその人に合った趣味や楽しみごとを見出して支援している。		
28	63	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	天候の良い日には散歩やドライブに声掛けして、希望があればその都度対応している。		
(4) 安心と安全を支える支援					
29	68	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	無断での外出者が居られるため施錠しているが、外出の希望があれば職員が同行介助をしている。	○	無断外出を事前に察知できるような工夫をして、鍵をかけないケアを望む。
30	73	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年に2回、消防署の協力を得て避難誘導訓練を行っている。また防災委員会が設置されており、災害対策マニュアルも作成されている。		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
31	79	○食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	毎食の主食、副食の摂食量をチェックして個人ケース記録に記載しており、栄養のバランス等にも配慮している。水分摂取量の記録はないが、食事時、おやつ時には水分摂取の支援をしている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
32	83	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	居間には数名が座れるソファ、円形のテーブル、またテラスにはガーデンテーブルを設置しており、入居者はそれぞれ自由に過ごしている。不快な音などは無く、居間、居室には適度な採光があり快適である。玄関や建物の周りには季節の花が植えられ季節感がある。		

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
33	85	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	在宅時からの馴染みのダンスや仏壇などが持ち込まれ、個性的で居心地の良い居室になっている。また家族の宿泊希望があれば可能であり、寝具の貸し出し等も出来る。		